第34回
東京モーターショー
商用車
COMMERCIAL VEHICLES

NEWS VOL. 1
2000年11月1日発行／Nov 1, 2000

アジアで初の商用車ショー開会式

― 政・官・財界人で賑わう ―

自動車工業振興会主催、今世紀最後を飾る第34回東京モーターショー＜商用車＞の開会式が31日午後2時30分、千葉・幕張メッセの国際会議場2階コンベンションホールで、総裁の寛仁親王同妃両殿下をお迎えし、華やかに行われた。

11月1日からの一般公開に先立って開催された会場には、政・官・財界人、千葉県知事を始め業界関係者約600人が出席。石川赳夫・専務理事の開会の辞、国旗掲揚のあと主催者を代表して奥田碩会長から「今回はアジアで初めて開催される国際的な総合商用車ショーとなりました。テーマは“個性満載。地球を走る。明日をつくる。”とし、出品各社の物づくりと環境対応の成果など21世紀を見据えた新しい商用車の姿、魅力を堪能していただきたいと思います」と挨拶。次いで坂本剛二・通産省総括政務次官、森田一・運輸大臣、それに沼田武・千葉県知事からそれぞれ祝辞が述べられた。このあと宗国旨英・副会長の開会宣言に続いて寛仁親王妃信子殿下がテープにハサミを入れられると場内は拍手に包まれ午後3時に閉会。両殿下は奥田会長の案内で1時間10分ほど徒歩で会場内を一巡されたが、「乗用車ショーに比べて面白いところもあるね」と丹念にご高覧されていた。なかでも福祉車両などに興味を示されたご様子だった。

徒歩でご高覧される両殿下

また午後4時40分から国際会議場2階コンベンションホールで、寛仁親王同妃両殿下ご参加のもと祝賀レセプションが行われたが、出席者は約900人、乾杯の発声は宗国副会長が行い午後6時、和やかに終了した。

開会式で挨拶する奥田会長

レセプションで乾杯の音頭を取る宗国副会長

特別企画 シンポジウム開催

今ショーでは11月1日（水）と3日（金・祝）の両日に、会場内の国際会議場2階において、物流をテーマにしたシンポジウムを開催します。まず第一回目の1日は、物流とITの専門家をお招きし、21世紀社会へ向けての“人・もの・情報”のより効率的な循環型社会の創造について考えます。

シンポジウム1「ITと物流の大融合時代がやってきた」
～21世紀のグランドデザインを考える～

講演者：小中 陽太郎氏（作家）
笹田 剛史氏（大阪大学大学院工学研究科教授）
藤田 史郎氏（（株）NTTデータ相談役）
藤松 忠夫氏（フジマツ・コーポレーション会長 元日本航空（株）広報部長）
司　会：高橋 南海氏（タレント）
2000年11月1日（水） 13:30～16:00（開場13:00）
幕張メッセ 国際会議場2F 国際会議室

21 世紀に進化する商用車

― 開花した環境・ITS・福祉の新技術 ―

アジアで初の商用車ショー。そのせいか、世界7 カ国・129 社・2 政府・2 団体が参加するという国際レベルの開催となった。会場は初のグループ展示（トヨタ）を含む商用車13 社、共同展示を合わせボディ 26 社、部品90 社、電気自動車 1 団体のブースが並ぶ華やかな雰囲気。ビジネス中心とはいえ一般ユーザーも楽しめる“ 総合商用車ショー ”として演出されたところに特徴がみられる。

見所は軽トラックから大型トラック・バス、商用車から福祉車両、RV までの最新鋭車 261 台のフルラインナップ展示となったこと。このうち近く市販される参考出品車が約30 %を超えるほどの豪華さで、中には遊びと仕事を共有した面白クルマなど、ビジネスの枠を超えて生活そのものを楽しく変えていく商用車のあり方を提案していたものが多い。

また出品各社に共通しているのは「環境・ITS ・福祉」。環境の主役はハイブリッドだが、ほかにも天然ガス車、ディーゼル微粒子除去装置など多彩な新技術が見所。ITS は先進安全自動車から次世代運行支援システムまで。福祉は介護車から車イスの乗降に優しく工夫された車が多く見られた。

なお RV やミニバンが総台数の 15 %を占めていたことも一般ユーザーを誘い、このショーを大いに盛り上げることだろう。

初のグループ展示で見やすくなった東ホール

ITS 関連技術などで賑わう部品コーナー

熱いメッセージを世界に

プレスセンター

パソコン、ファクシミリ、電話。世界に繋がる通信機器が並ぶプレスセンター。内外のジャーナリストが入れかわり立ちかわり姿を見せ、国際色豊か。東京で開かれる 20 世紀最後のモーターショー。同時に 21 世紀を開くという大切な役割を担う。21 世紀を意識した熱い言葉がブースでも飛び交う。そんな熱気を伝えようとパソコンに向かう記者。キーを叩く指にも力がこもる。時間とともに電話の声も大きくなる。東京モーターショーの情報発信基地“ プレスセンター ”から、世界へ向けて熱いメッセージが終日発信されていた。

プレスデー恒例のプレスブリーフィング。どこも熱心な記者が詰めかけ、中には“ 立ち見 ”の出るブースも。この日注目を集めたのがトヨタのモーターショー初のグループ展示。張富士夫トヨタ自動車社長、湯浅浩日野自動車社長、山田隆哉ダイハツ社長の 3 首脳が勢揃い。最後には 3 社長そろってカメラの前に。そして記者を驚かせたのが日産自動車のカルロス・ゴーン社長。終始達者な日本語で説明、これには並みいる記者も“ さすが ”と脱帽。

外国人記者の目

The Press Interview

UCL　編集長
シェリー・ドゥさん（香港）
（UCL Magazine Chief Editor
SHEREE, DOO）

ＵＣＬは自動車の専門誌で季刊ですが人気はありますよ。モーターショーの取材は６度くらいになるが、今回の商用車ショーは大変素晴らしい。乗用車と一緒だと全部一度に見ることが出来ないので別々開催の方が良いし、これからも期待大だ。今回の展示では私には三菱のトラックが大変印象的だった。大型トラックの免許を持っている人は少ないと思うのでトラックの運転シミュレーションがあればと思う。唯一欠点を言えば喫煙所が別でお茶しながらタバコがすえないことだわ。

10月31日のプレス入場者数 Oct 31st Press attendance : 2,745人　入場者数累計 Attendance to date : 10,700人
編集・発行／社団法人 自動車工業振興会　Issued and Produced by JAPAN MOTOR INDUSTRIAL FEDERATION,INC.
制作協力／株式会社 青松社・コニカユービックス東京株式会社